

2025年11月29日 飛騨高山学会 発表

高山市中心部で公有化された歴史的建造物の 整備プロセスと運営効果

～高山市若者等活動事務所「村半」を事例として～

國學院大學 観光まちづくり学部助手

黒本剛史

目次

第1章 はじめに

第2章 公有歴建の全国調査

2-1 調査概要

2-2 調査結果

2-3 公有化に関する課題

第3章 高山市の公有歴建

3-1 調査概要

3-2 高山4施設の特徴

第4章 「村半」調査

4-1 施設概要

4-2 整備プロセス

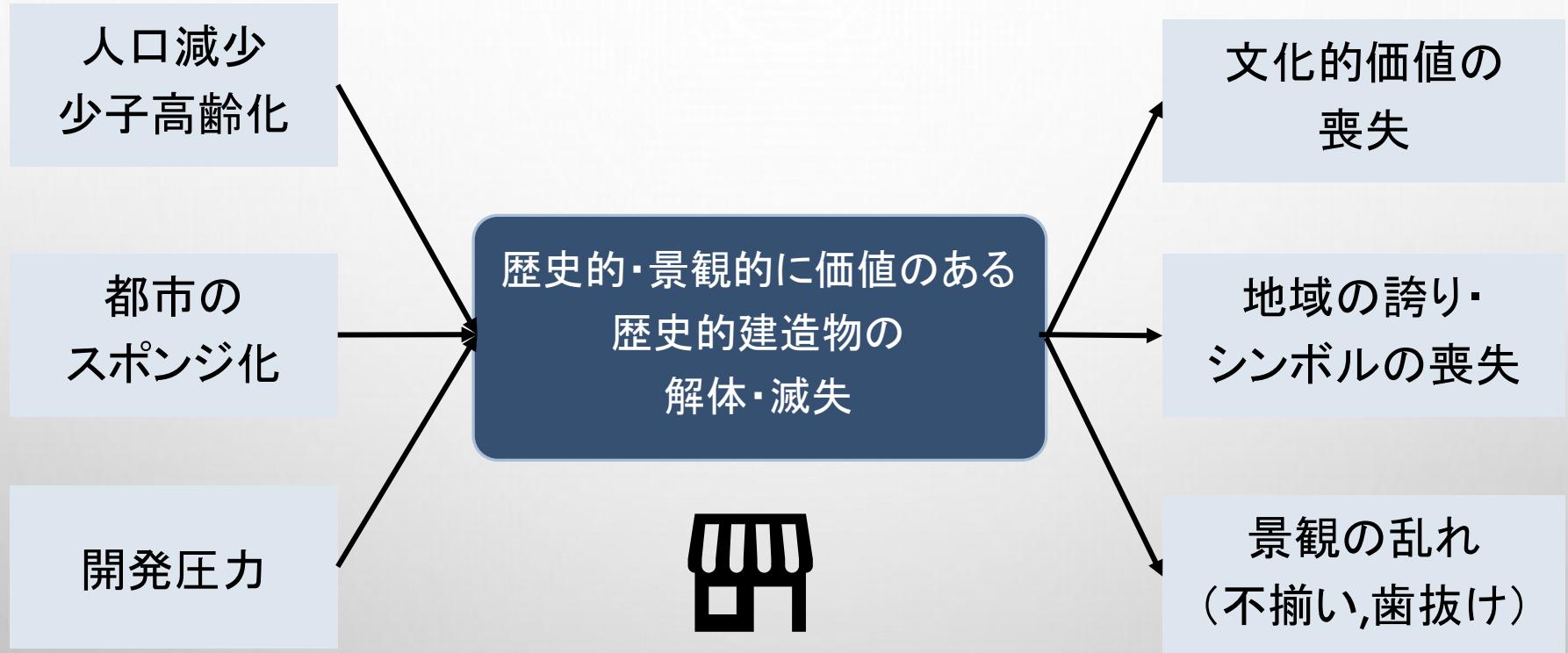
4-3 利活用状況

4-4 利用者調査

4-5 まとめ

第1章 はじめに

歴史的建造物保存の問題

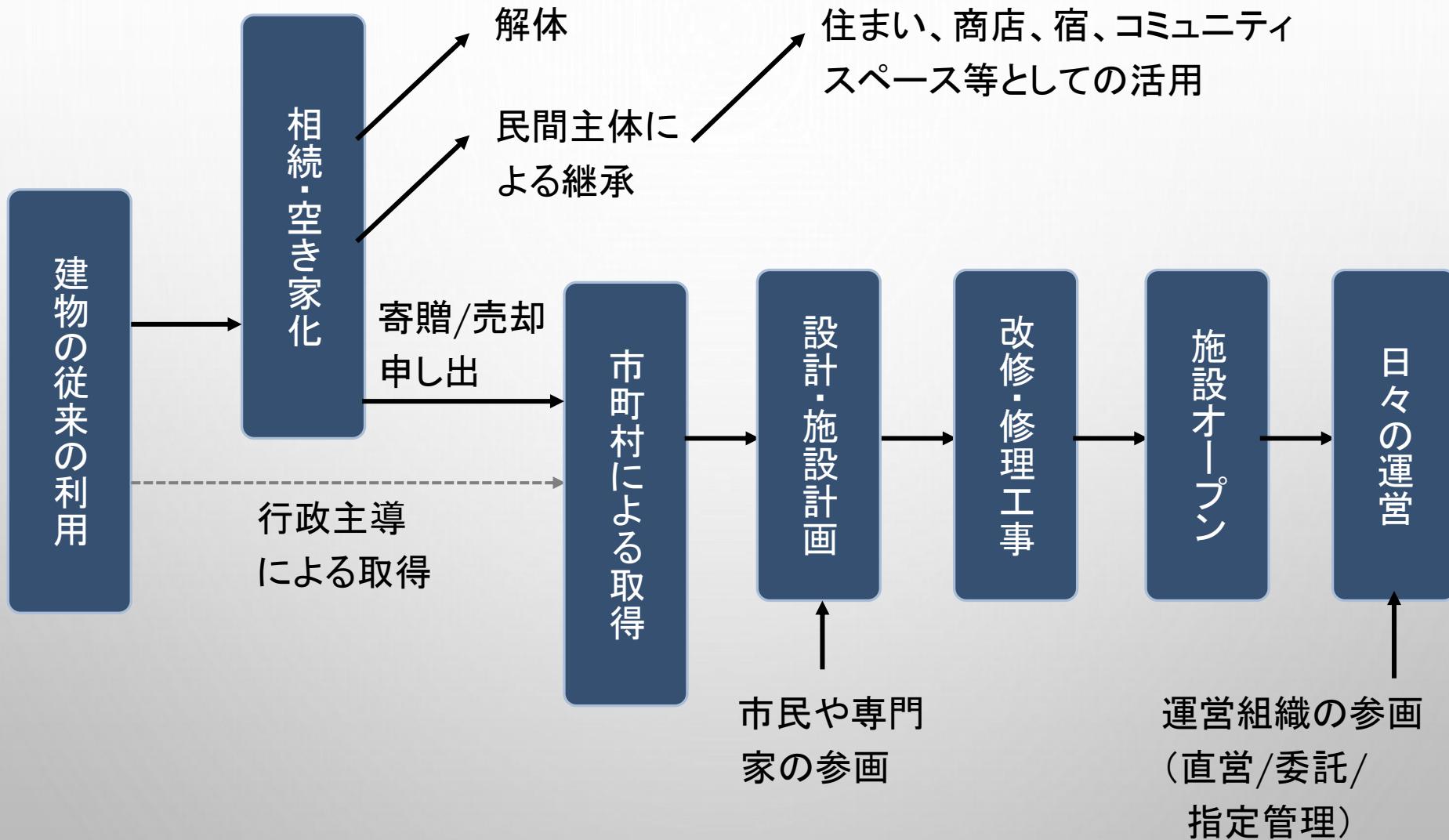


人口減少時代となり、全国で多くの価値ある建物が解体の危機に瀕している。

公有化による建物保全・活用

第1章 はじめに

4

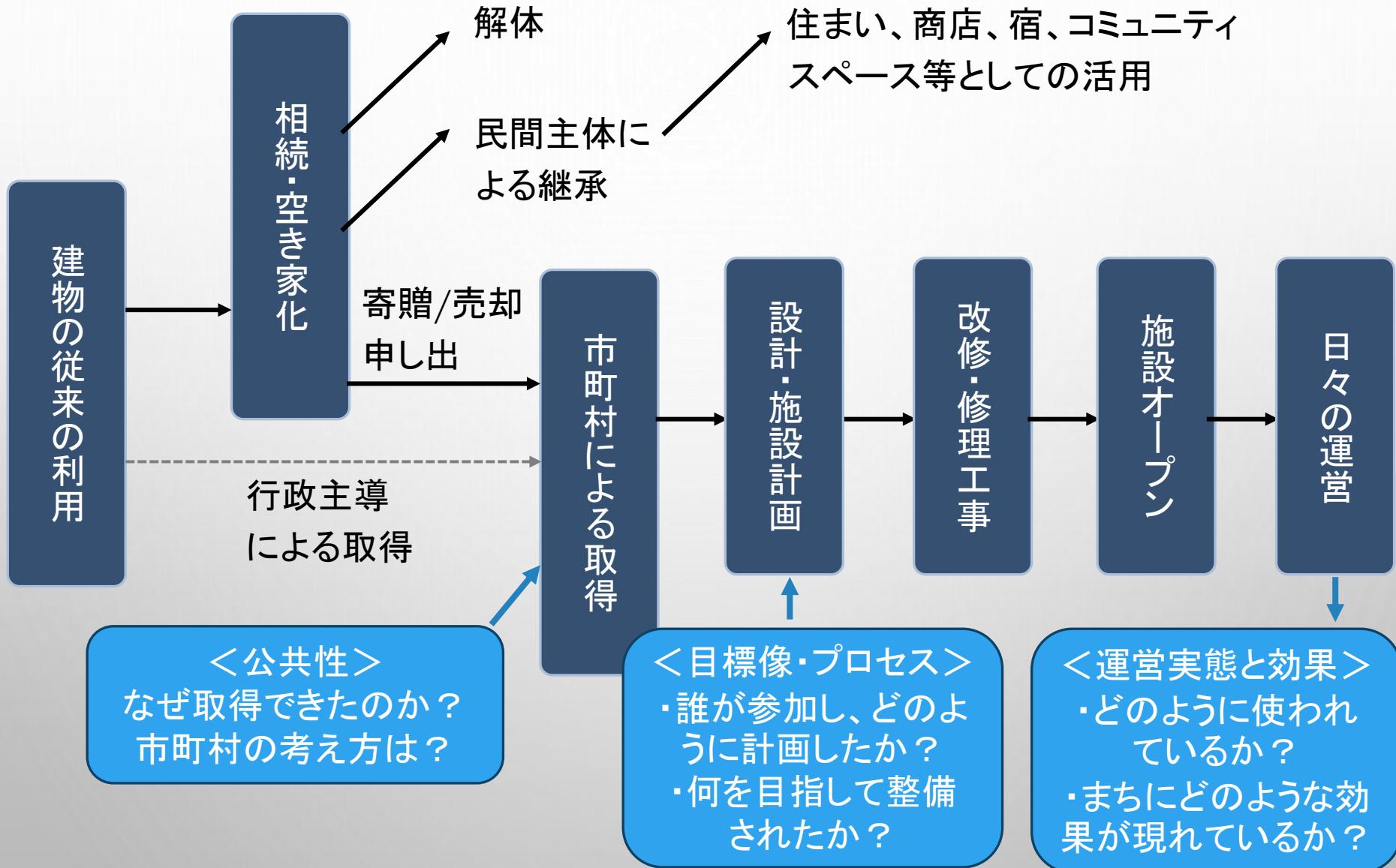


市町村が取得して保存できた建物は、計画・設計・工事を経て公共施設としてオープンする。

公有化をめぐる問い合わせ

第1章 はじめに

5



これにより、歴史的建物の保存・地域の目標達成への貢献を目指す

第2章 公有歴建の全国調査

2-1 調査概要

2-2 歴史的建造物の用途

2-3 公有化に関する課題

- ・町並み保存地域の代表として、日本全国の伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）と歴史まちづくり法の重点区域をもつ166市町村を対象に、アンケートを実施。
- ・第1部：市町村の取得に対する姿勢を尋ねた。
- ・第2～3部：伝建地区や重点区域内で、公有化された歴史的建造物があるか、ある場合はその概要や整備経緯・コスト・活用実態などを尋ねた。

表 アンケート調査の概要

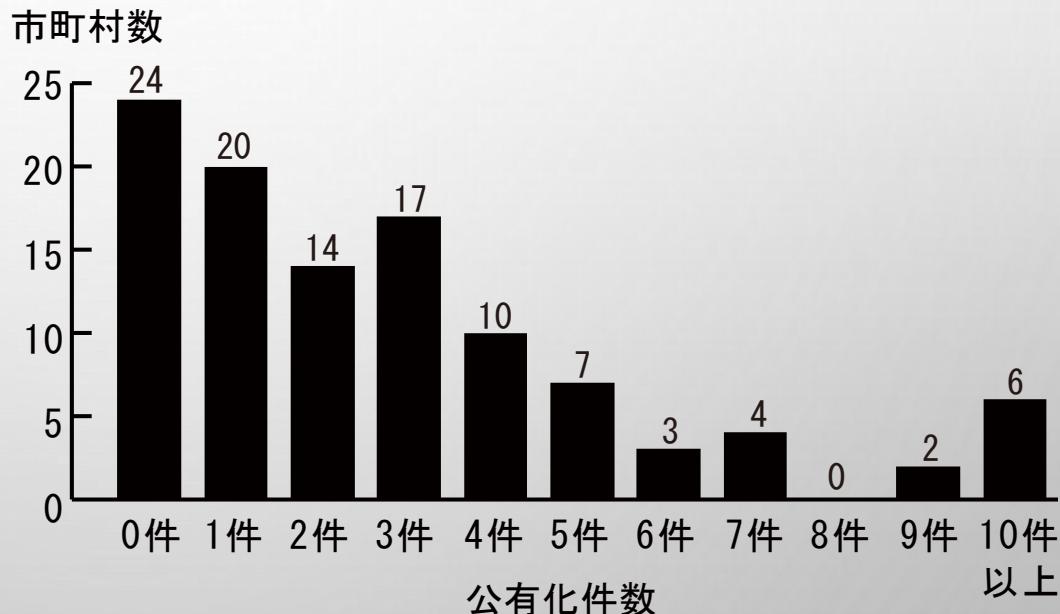
項目	内 容	
調査対象	2025年2月時点で歴まち計画または伝建地区を有する166市町村の担当者	
調査期間	2025年2月～4月	
回答数	107市町村(回収率64.5%)	
主な調査内容	第1部 市町村ごと ・依頼・相談や取得の実態 ・取得可否の判断基準や体制 ・関連する行政計画	第2部・第3部 建物ごと ・建物概要と取得時の経緯 ・各段階の主体の役割 ・取得後の整備経緯 ・改修工事の詳細 ・運営の実態

市町村の取得実態

- 寄贈または売却の申し出について、「原則受理しないが特別な場合は検討する」が最多の71%と、慎重な姿勢。
- 公有化した歴史的建造物数：平均2.42件
所有しない(0件)は24市町村
最も多い市町村は25件(長崎市)、次いで18件(金沢市)

歴史的建造物の寄贈または売却の申し出に対する対応方針(n=107)

受理し取得可否を検討する	19 (17.8%)
原則受理しないが、特別な場合は検討する	76 (71.0%)
一切受理しない	12 (11.2%)



所有する歴史的建造物の件数ごとの市町村数 (n=107)

取得判断の根拠

- ・他にも寄贈や売却希望がある中、どのような観点で可否を判断しているか
(=何をもとに、**公共性がある**と判断しているか?)
- ・第一は「**文化財的価値**」
- ・使用価値として「活用可能性」や「観光集客のポテンシャル」も一定程度考慮。
- ・取得や改修、維持管理時のコストを考慮する自治体もあり。

可否判断で考慮する項目
(3つまで選択) (n=69)

建物の文化財的価値	54
建物の従前の用途	1
接道や立地	6
水道や電気などインフラの状況	0
近隣住民の意向	8
観光集客のポテンシャル	11
活用可能性	38
検討時の財政状況	11
建物の老朽度	4
取得費用	14
改修費用	8
維持管理費用	18
行政計画における位置付け	18

公有化施設の用途

歴史的建物の見学、地域の歴史
や民俗・アート等の展示

市民や来訪者(観光客)の利便

市民や来訪者の交流

スペースとして活用

商業目的に活用

表 施設の用途 N=259,複数回答可

内部見学	130
展示	128
教育・文化	83
観光案内	54
休憩施設	48
交流	62
貸室・テナント	45
イベントスペース	49
事務所/オフィス	42
飲食	43
物販	36
宿泊	14
居住	2
福祉	1
未定/検討中	16

特徴的な用途の例

第2章 公有歴建の全国調査 11
2-2 調査結果



金沢市「学生のまち市民交流館」
学生団体や市民団体等の活動場所



栃木市「嘉右衛門町伝建地区拠点施設
ガイダンスセンター」
伝建地区の案内、シェアオフィス、店舗



福山市「鞆てらす」
観光客利便施設・移住相談窓口



川越市文化創造インキュベーション施設
コエトコ シェアオフィス・カフェ・展示室

公有化施設の課題

第2章 公有歴建の全国調査 12
2-3 公有化に関する課題

アンケートで寄せられた課題 大きく分けて…

- ・多額のコストを要するため、新たな取得ができない / 費用捻出が困難
- ・人材不足、民間運営者の活用ノウハウ不足、テナントが入らない
- ・文化財や公有のため改修や活用の法規制や制約が大きい
- ・活用状況が不十分、入館者の減少、建物の魅力が乏しい

アンケートで寄せられた課題

- ・多額のコストを要するため、新たな取得ができない / 費用捻出が困難

高山の公有化施設の特徴

- ①政策課題に応じた役割を担い、費用を超える価値を創出
- ・人材不足、民間運営者の活用ノウハウ不足、テナントが入らない
- ②民間への委託によらない持続的な運営体制
- ・歴史的価値や公有であることによる、改修や活用上の法規制や制約
- ③制約を乗り越える整備と利用の工夫
- ・活用状況が不十分、入館者の減少、建物の魅力が乏しい
- ④使われるための仕掛けと場づくり、継続的な検討体制

第3章 高山市の公有化歴史的建造物の状況

3-1 調査概要

3-2 高山4施設の特徴

高山市の公有化施設

第3章 高山市の公有歴建
3-1 調査概要

15



飛騨高山まちの博物館



飛騨高山にぎわい交流館
「大政」



松本家住宅



飛騨高山まちの体験交流
館



高山市若者等活動事務所
「村半」



宮地家住宅

新たな目的で活用している4事例について分析

写真出典(松本家・宮地家):高山市HP

その他:黒木撮影

施設名	飛騨高山まちの博物館	飛騨高山まちの体験交流館	飛騨高山にぎわい交流館「大政」	高山市若者等活動事務所「村半」
開館時間・料金	展示室:9時～19時など 庭・広場:7時～21時 入場・見学無料	交流館:9時～19時 交流広場:9時～21時 入場無料	9時～21時30分 入場無料 トイレは24時間可	9時30分～21時30分 入場無料
整備目的	・周遊拠点施設として周遊ルートを整備し回遊性を向上	・市民や観光客の交流 ・伝統文化, 地場産業の振興	・利便性, 回遊性 ・滞在時間延長による下町エリア活性化	・若者による地域活性化を推進する事務所 ・伝統文化の保存継承
政策課題	・三町への観光客集中と短い滞在時間 ・東山寺院群・空町への周遊ルートの整備	・防災機能を備えた空地の必要性 ・図書館跡地が町並みの連続性を阻害 ・伝統文化を体感する機能の必要性	・中心市街地の居住人口・小売店舗数・歩行者数の減少	・高校卒業後の転出等により若年層人口が減少, 少子高齢化に拍車
プロセス	・郷土館と一体整備 ・用地を取得し既存建物を除却, 景観を創生 ・回遊性向上のため長時間通り抜け可能に ・建物高さを調整しユーバーサルデザイン対応	・図書館跡地の土地を取得して公共空地とし, 隣接町家を取得して一体的に利用	・人道橋(行神橋)とあわせた整備 ・既存建物の半分を市道とし, 市道に面した開けた造り ・ワークショップで検討 ・飛騨の家具, 照明	・地元の屋台組により30年近く維持管理 ・公募市民による検討会や意見交換を実施 ・利活用検討会で改善を継続 ・主屋は建物維持重視
利用人数 利用形態	222, 699人(R6年度) ・歴史資料等を展示 ・伝統文化保存団体等の練習・会合 ・ボランティアガイド ・歴史関連イベント	来館者299, 291人(R6) 実演・体験実績9, 641人(R6) ・伝統文化/工芸体験 ・イベント広場	99, 830人(R6年度) ・観光案内, 市民や観光客の休憩 ・産業団体の会合 ・イベントの実施	27, 198人(R6年度) ・若者の学習, 交流, 料理などの活動 ・地域団体の会合 ・イベントや展示会 ・見学・休憩
整備効果	・景観の創生 ・人の回遊行動の変化	・体験型観光への対応 ・イベント広場	・回遊行動の促進 ・観光客の利便性 ・近隣商店街の建物再生・活用促進	・若者等の居場所 ・市民活動や交流 ・近隣との支え合い ・愛着と誇りの醸成

飛騨高山まちの博物館

第3章 高山市の公有歴建
3-2 高山4施設の特徴

17

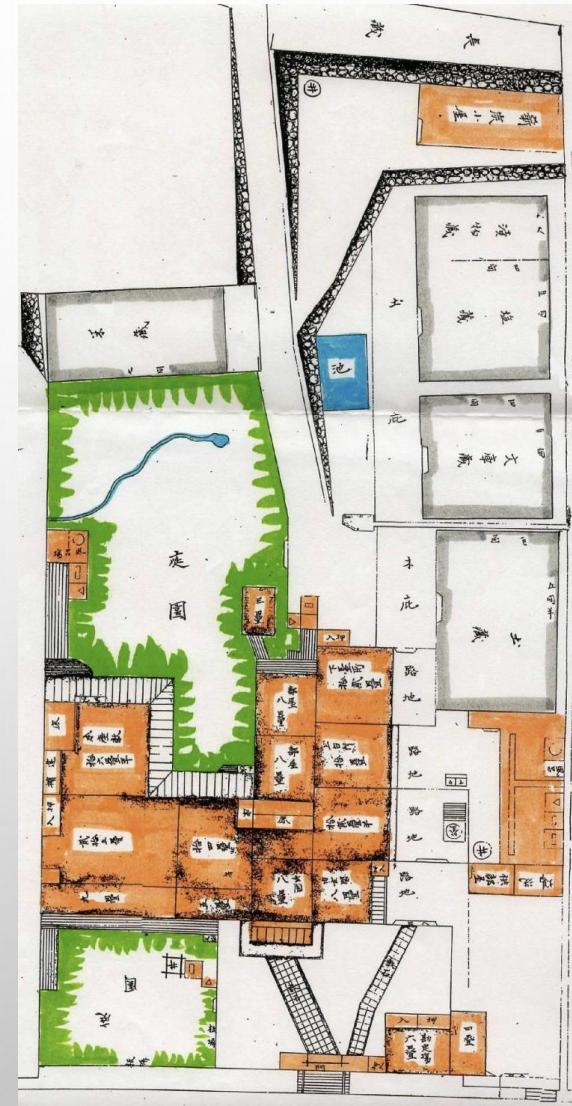


従前の旧矢嶋邸



従前の旧矢嶋邸(通りから)

- ・土地と建物を取得し、町並みに合わない建物を除却
既存の歴史的建物を活かして整備し、景観を創出
- ・回遊性の向上を狙って整備され、夜間21時まで通り抜けが可能
- ・空町方面を歩く人が増えるなど、実際に人の動きに変化がみられている

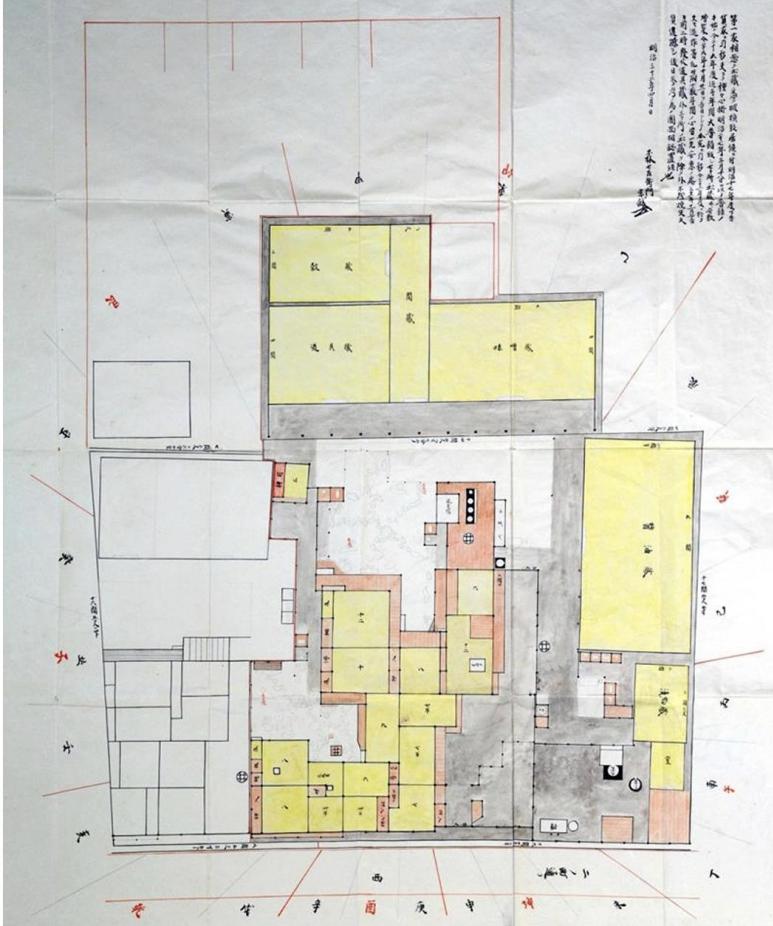


写真・図面：高山市歴史的風致維持向上計画P137-P138

飛騨高山まちの体験交流館



旧図書館(中央)及び飛騨高山まちの博物館(左上)



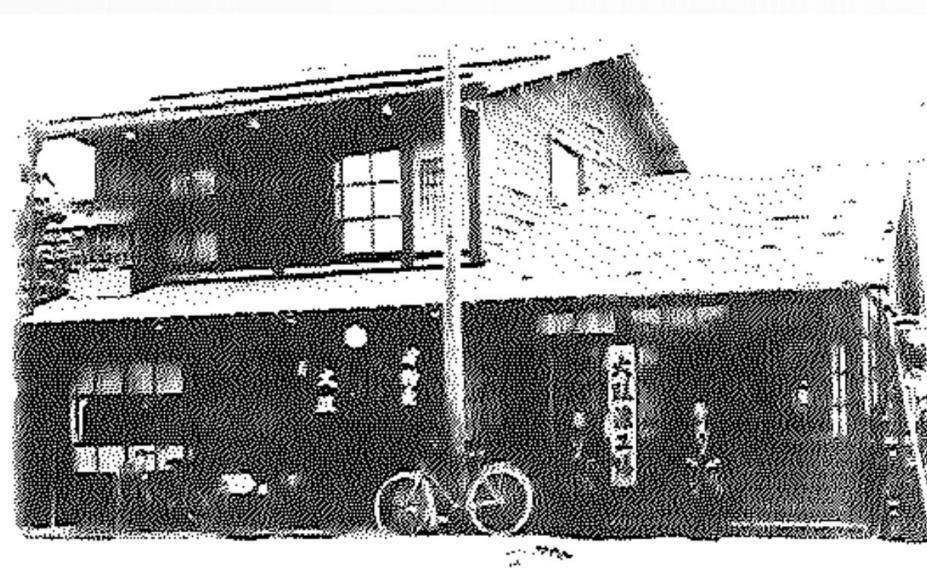
旧森邸平面図(明治31年当時)

- ・旧森邸の町家を取得して交流館として活用、旧図書館の敷地を生かした交流広場と一体で利用
- ・体験型の観光による伝統文化・地場産業の振興をねらう
- ・交流広場に電源等の設備を備え、イベント広場として活用

飛騨高山にぎわい交流館「大政」

第3章 高山市の公有歴建
3-2 高山4施設の特徴

19



従前の大政



人道橋側からみた大政

- ・商店街をはじめとした中心市街地活性化を目標とする
- ・宮川朝市方面と本町商店街方面を結ぶ人道橋と一体的に整備
- ・飛騨産の家具・照明等を使用
- ・観光客の休憩・情報収集のほか,若者の滞在場所や会議の場など多目的に活用されている

出典:左:高山市提供資料 右:黒本撮影

高山市若者等活動事務所「村半」

第3章 高山市の公有歴建
3-2 高山4施設の特徴

20

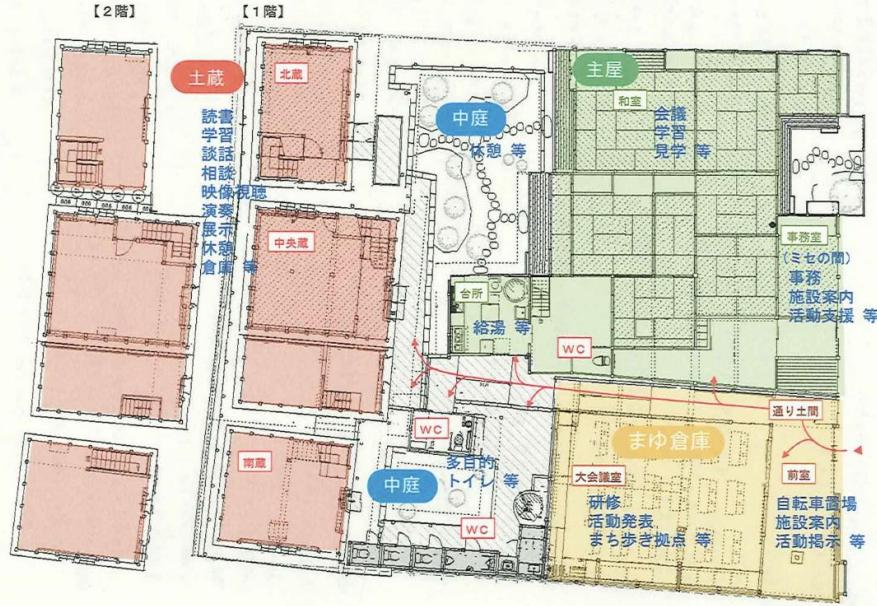


戦後間もない頃の村半

平面図（主な利用形態）

利用法等

※各部屋とも用途限定ではなく、柔軟な利用を想定



現在の建物内図面

- ・高校卒業後の転出等により人口減少が進んでいる状況に対し、若者等の活動による地域活性化を推進しながら、伝統文化を保存継承するための事務所
- ・地元の屋台組が30年近く維持管理してきた建物を、市民や地元との議論を重ねながら計画・整備
- ・開館後も利活用検討会で改善を継続

出典：高山市提供資料

高山の公有化施設の特徴

第3章 高山市の公有歴建
3-2 高山4施設の特徴

21

- ・4件の公有化建造物は、政策課題や地域の目指す将来像に向けて、取得・整備されている。
- ・歴史的建造物を保全するだけでなく、既存建物の除却により良好な景観へと導く事業はユニーク



図 高山市の公有歴史的建造物の配置
(国土地理院地図より黒本作成)
ピンク網掛けは伝建地区

第4章 若者等活動事務所「村半」調査

4-1 施設概要

4-2 整備プロセス

4-3 メディア分析

4-4 利用者調査

4-5 まとめ

①政策課題に応じた役割を担い、費用を超える価値を創出

①整備目的と意義

②民間への委託によらない持続的な運営体制

②運営体制

③制約を乗り越える整備と利用の工夫

③制約を越える

④使われるための仕掛けと場づくり、継続的な検討体制

④有効活用

- ・所在地 : 高山市下二之町6~8番地
- ・規模 : 敷地面積692.12m²
延床面積 主屋344.03m²、まゆ倉庫・外トイレほか132.48m²、土蔵3棟209.14m²
- ・休館日 : 毎週火曜日・年末年始
- ・営業時間 : 午前9時半～午後9時半
- ・運営方針 : 若者による地域活性化を推進するための事務所とするほか、建物の立地や歴史的価値を考慮し、伝統文化の保存継承にも寄与する施設として運営
- ・運営体制 : 直営。常駐スタッフ2名 + パート勤務5名等の体制
- ・事業費 : 合計約3.6億円 うちうち国交省補助金で約1.5億円
- ・運営費 : R5年度13,277千円/年（行政職員の人事費含まず）
- ・着手経緯 : 30年近く空き家で、地元屋台組が管理・祭りで利用。平成29年に国交省事業の対象となり利活用検討スタート。

②運営体制

人口減少の政策課題

第4章「村半」調査 4-2 整備プロセス

25

- ・市内に大学がなく、高校を卒業した学生が戻らない
→ 人口ピラミッドがくびれ、人口減少と活力低下

- ・将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート
「いつか戻りたい」学生が1/3
→ いかに繋がりを継続するか

まちづくりの方向性とまちづくり戦略

③ 将来に対して夢と希望が持てる社会の構築

- ・若者等活動事務所の運営などにより、若者が夢や希望を語り合い活動できる交流の場の提供とまちなかの賑わい創出を図ります。
- ・飛騨高山大学連携センターなどによる大学連携を推進します。
- ・子ども夢創造事業の実施などにより、子どもの夢や創造力を伸ばす学習機会の充実を図ります。



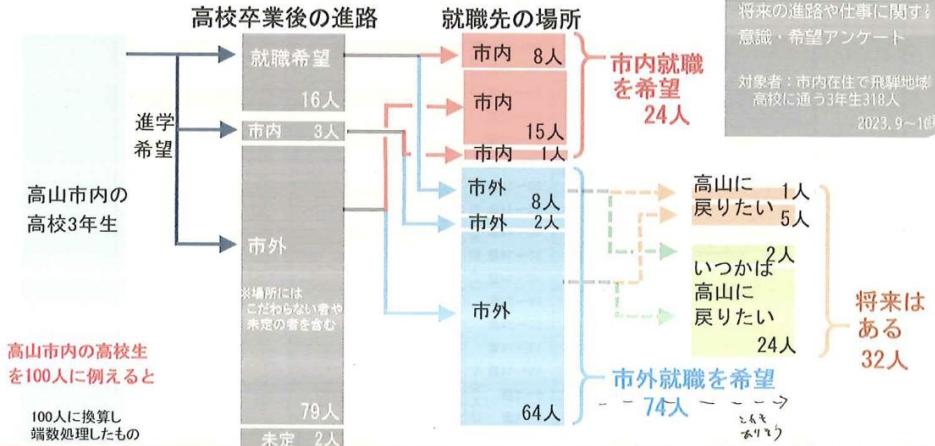
■若者等活動事務所（村半）



出典：高山市第8次総合計画(R2年度)

①整備目的と意義

高校生の地元就職の意向

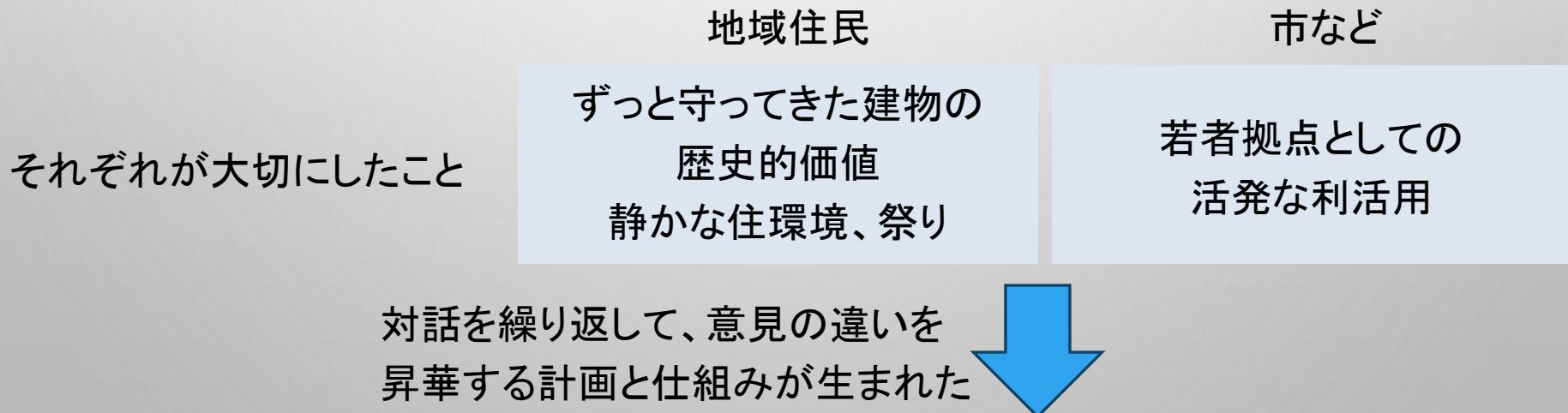


出典：高山市資料

- ・地域で大切に守り継がれてきた文化財を活用するため、多くの市民の意見を聞き整備・運営内容に反映することとなった

- ①整備に向けた検討会：公募メンバーにより平成29年度～30年度に10回開催
- ②関連団体との協議：

景観町並保存連合会、伝建地区保存審議会、鳩峯車組（地元屋台組）
下町飛驒高山伝承地域活性化推進協議会



③制約を越える

- ・条例のある「公の施設」としなかった：活動目的を限定しないため。
 - ・「事務所」とすることで、建築基準法上の特殊建築物に該当させない
(→建築基準法の内装制限がからない)
 - 事務所は利用者にとって、サービス施設ではなく「自分の場所」として使いこなせる場所。開館時に設えは未完成で、利用者が手を加えて整えていった。
 - ・耐震補強は現行の建築基準法レベルではなく「できる限りの補強」とし、主屋2階は利用せず保存を優先。
 - 伝統的な内装「紙床」をはじめ、建物の歴史的価値を保存できた。
 - ・所管部署は「企画課」とし、特定の課の色をつけず、目的を限定しない。
(現在の名称は総合政策課)
 - ・利用者は不便な点も含めて、知恵とコミュニケーションで使いこなす
-
- 公共施設や歴史的建物の制約である「目的の限定」や、現行の建築規制による「改修による歴史的価値の喪失」を避けた。

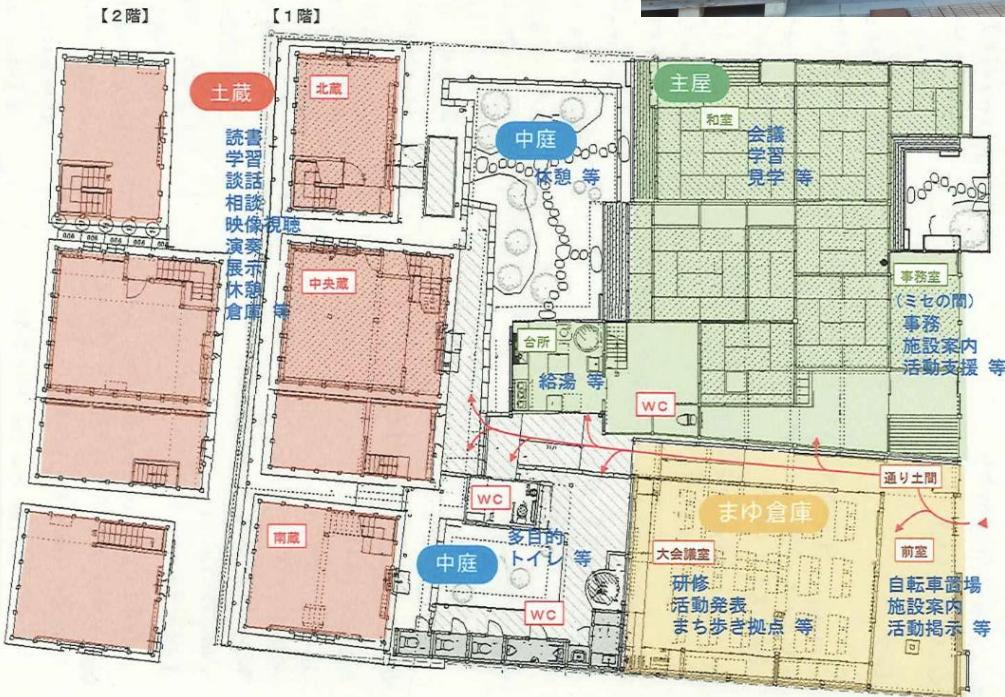
工事・空間整備

第4章「村半」調査 4-2 整備プロセス

28

利用法等

※各部屋とも用途限定ではなく、柔軟な利用を想定



歴史的価値に配慮した整備(伝統構法に適した耐震化)

利用スタイルに応じた**多様な空間**(大会議室、主屋、3つの蔵の6室)

④有効活用

②運営体制

④有効活用

・利用者数の推移

コロナ禍とともにオープン、利用者数は徐々に増加、年間2.5～3万人で推移。

- ・個人登録者2086人、団体登録者250組
- ・10～19歳が個人登録者の69.1%

村半利用者数の推移(年度ごと、人)



<利用者への接し方>

まず利用者にとっての「安心感」

- ・大人は見守り、観察し、任せる
- ・いってらっしゃいとおかえり
(地元に残ることを求める)
- ・利用者は、ここに居るだけで価値があり、頑張ることを求める
- ・自由度、ルールの自主性
ルールは「人に迷惑をかけない」
話し合いや気付きで解決する

→この姿勢が市・スタッフ・検討会メンバー一貫で共有されている

- ・「もう一つの村半」として力を入れているSNS発信
- ・2020年7月オープン以降(約5年間) 投稿1761件、フォロワー2963人
(2025年11月現在) 閲覧者の46%は18~24歳、16%は13~17歳
- ・テスト的調査として、2025年9月9日までの1年間(201投稿)を対象に集計

施設紹介	お知らせ	イベント告知/報告		季節の設えや活動	来訪者・利用者の様子(102件)				記事・村半へのメッセージ
		館内	館外		おかげり	館内での活動	初めての来訪	視察・研究	
2	16	38	4	14	24	54	23	11	15

- ・日常的な来訪者や利用者の様子が、イベント告知より多く、全体の約半数(102)を占める。
- ・特に利用者が帰省などで顔を見てくれる「おかげり」の投稿が24あり、地域を出た若者が帰って来られる場所に。
- ・「村半へのメッセージや記事」が集まつくるのも特徴。職場体験やインターン生による村半紹介、メディアの取材記事、など。
- ・卒業後も、SNSを通じて関係性が持続

<館内での多様な活動>投稿54件

- ・友人への誕生日プレゼント制作
- ・体育祭の準備
- ・テスト勉強・受験勉強
- ・キッチンで料理
- ・ほっこり、休む、ボードゲーム
- ・たこ焼きパーティ
- ・おはやしの練習
- ・観光客との撮影
- ・80歳の同窓会

<イベント>投稿42件

- ・わいわい交流会(岐阜大地域ラボ)
- ・受験生応援企画(同じ釜のご飯)
- ・かるがもお話隊 夏祭り
- ・インスタ講座
- ・ボランティア養成セミナー
- ・出前茶会
- ・トークイベント「よそものからみた地方の魅力」
- ・メモリアルボード作成イベント
- ・高校生グループMAP'06地域活性イベント
- ・節分お化けイベント
- ・謎解きボドゲ
- ・琵琶独奏会 etc

→「休む」「滞在」「勉強」「交流」「活動」「イベント」がグラデーション的にうまれる

- ・**目的**: 開館5周年を迎える村半の、現在および過去の利用者を対象に、利用者にとっての受け止め方や評価を明らかにする
- ・**調査期間**: 2025年10月～11月
- ・**調査方法**: WEBフォーム
- ・**周知方法**: SNSでの周知、館内での掲示、直接の回答依頼、知人への転送、斐太高等学校でのポスター掲示と回答の案内
- ・**回答数**: 239件
利用者を対象にしたアンケートのため、「利用したことがない」という64件を除了いた175件を有効回答として集計する

※周知方法の都合上、統計処理に基づいたランダムなサンプル抽出ではないが、利用者の考え方や反響の概略を把握する目的で実施。

※本学部 客員研究員の田谷孝幸様と共同で実施

アンケート周知にあたっては高山市総合政策課および斐太高等学校のご協力をいただきました。

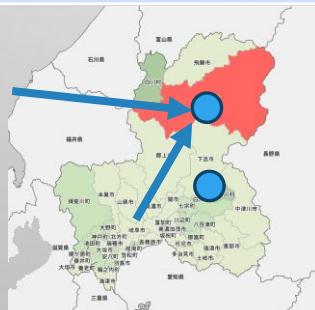
回答者の属性

第4章「村半」調査 4-4 利用者調査

33

- 回答者の多く(131人)は高校生・高専生で、うち。31人は市外在住、100人は市内在住。
- 「大学生・専門学校生・大学院生(以下大学生等)」は23人。2人を除いて、市外や県外に転出している。
- 社会人は13人で、うち5人は市外に転出している。

出身地から居住地への移動	市内→市内 市外(県内)→市外(県内) 市外(県内外)→市内	市内→市外(県内外) 市外(県内)→県外	県外→県外
小中学生・ 高校生・高専生	129 (うち小中学生1人)	3 (すべて高校・高専生)	0
大学生等	2	20 域外転出者	1
社会人	13	5	1



利用頻度と利用目的

- ・最も多い利用頻度は「年に数回程度」で、50人
- ・週1日以上利用するのは65人(37%)
- ・利用目的(複数回答可,自由記述)としては「勉強」「学習」が最も多く126件。
- ・「友人」や「友達」は26件、「遊ぶ」26件、「会議」9件
- ・その他の記述として、女子会、写真現像、イベント企画、スタッフと話す、誕生日パーティ、映画鑑賞、ヨガ、子ども向けイベント、和楽器イベント、文化祭の準備、座談会、ボードゲームなど多様

多いときでの利用頻度(n=174人)



利用目的(複数回答可・自由記述より抽出)n=174人



- ・現在の村半との関わりを尋ねた。
- ・転出した25人と、それ以外の149人(多くは高校生)の回答を比較。
- ・回答した転出者の多くは、近況についての情報確認や、帰省時の訪問など
 、**地域を越えて村半との関係性が継続。**

現在の村半との関わり(複数回答可,N=174)

	非転出者 149	転出者 25
現在も継続的に利用している	62	0
現在は関わりが少ない / 特に関わりがない	85	6
村半の近況についての情報を確認している	9	7
帰省・訪問した際に立ち寄る	3	13

あなたにとっての村半を一言で

第4章「村半」調査 4-4 利用者調査

36

・使いやすさ・自由さ

「便利」「自由」「フリー」等は21件

「勉強」関連は28件

・居心地のよさ

「サードプレイス」「居場所」関連は15件
「落ち着く」「ほっとする」14件

「憩い」など9件、「溜まり場」6件

・交流の場

「出会い」「ご縁」「交流」7件

・ 高校生までの印象は、勉強や利用し

やすさが中心。

・ 卒業後には居場所・サードプレイスと
して認識したり、帰る場所(実家・ふる
さと)という存在へ変化する

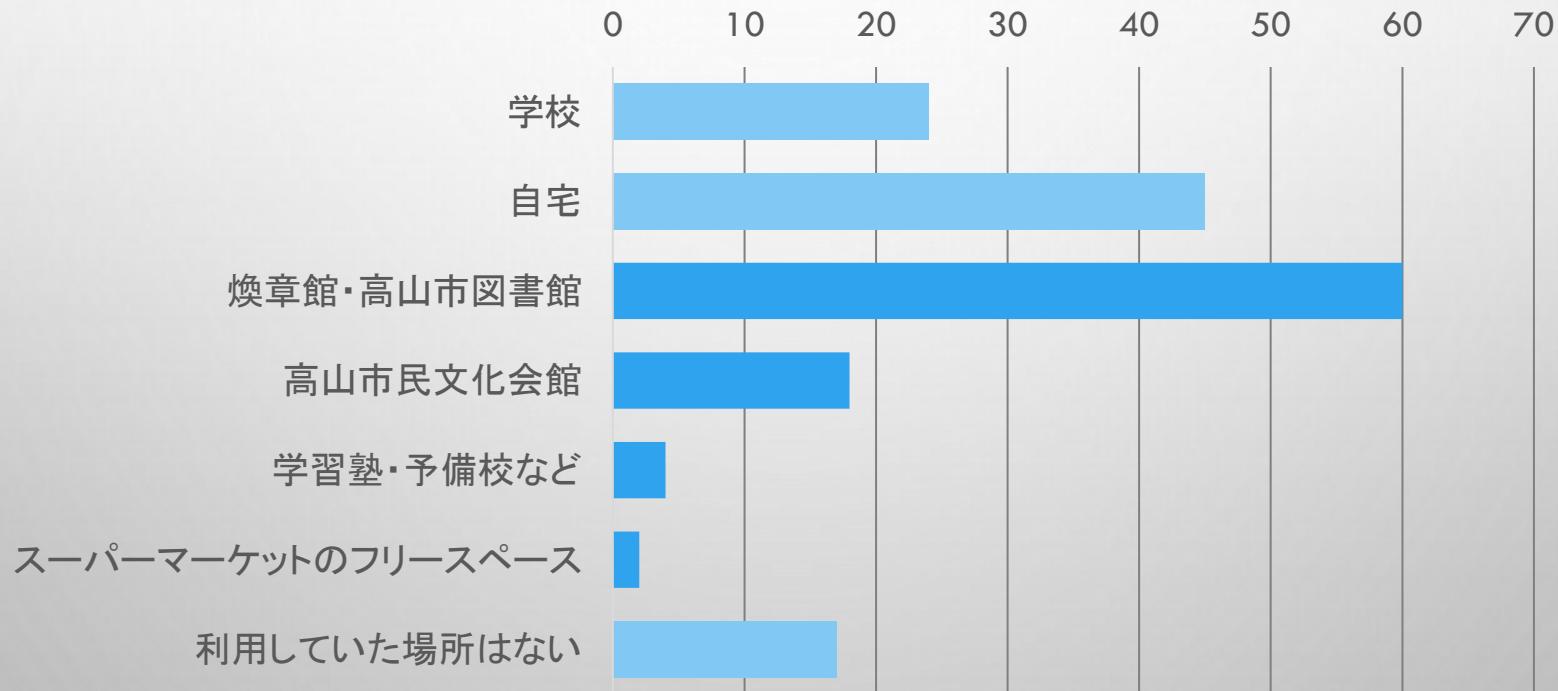
175件の自由回答から抽出したキーワード

キーワード	小中高	大学生以上
勉強/学習	28	0
便利/何でもできる/自由に 使える所/フリースペース	20	1
サードプレイス/第3の居場 所/第2・3・4の家/実家/居 場所	3	12
落ち着く/ほっとする	9	5
憩い/休む/アットホーム/リ フレッシュ	6	3
出会い・ご縁・交流	5	2
溜まり場	6	0
気軽	0	4
帰る/ふるさと	0	3
ありがたい/唯一/貴重	4	1

村半を利用し始める前に利用していた施設や場所を尋ねた。勉強のできる図書館を挙げた回答が最も多い、自宅や学校が続いた。

約半数にあたる81人が、自宅・学校以外の居場所を以前は持っていないかった

村半の前に利用していた場所(n=170)



その他回答: CO-BA、ひだしんのイベントスペース、スター・バックス、国府支所、飛騨の里など

もし村半がなかつたら

第4章「村半」調査 4-4 利用者調査

38

「もし村半がなかつたら、生活に何らかの影響があったと思いますか」を尋ねた。
転出者25人のうち「なし」等を除いた19人の回答を記載。
出会い、やりたいこと(イベントや活動)の実現、友達との思い出などがあげられている

出会い、交流、友人との思い出

気軽に集まれなかつた
仲間と絆を深められなかつた
友達と勉強するところがなかつた
コロナ禍で人の交流がより減つたかもしれない
友達と勉強したり1人の時間を有効に活用したりすることは出来なかつたと考える
今関わっている仲間と出会えなかつたかもしれない
高3の時のみんなで集まって勉強するような思い出は作れなかつた。人の輪が広がつた。
村半がなかつたらスタッフや村半で会えた人に会えなかつたし、村半で誕生日会や料理をしていくので、それも出来なかつたと考えると、私の高校時代の青春の一部がなくなつていて思う
模試終わりの自己採点とか、クッキングとか、会議とか、村半があつたからこそできた友達との思い出がなかつたと考えると寂しくなる。
人との繋がりが少ない高校時代を送つていたと思う。

活動の場所や機会

高校生の探究をサポートする取り組みをしていたので、高校生の探求活動がかなりしづらく制限されていた可能性を考えられます
高山市や若者活動に関するモヤモヤを吐き出す場所がなかつたが、村半ができたことで村半で、若者の活動や高山市の政策などに関連したイベントが多く企画され、自分自身がいつも脳内で考えていたことを言語化し、それを聞いてくれる大人に会えた。「私の」考えだけで終わらず次に発展する(未来に向けて)「他者のための」考え、「他者のための」行動に変化させることができた。

自身の学習や取り組みの場

なにかに集中することは無かつた
自分のやりたいことが進まなかつたかもしれない
遊ぶ場所決めの選択肢が減つて、少し困るかもしれません
気軽に勉強しに行く場所がない
家で勉強するだらだらとやつてしまつて集中できない
暇つぶし場所がなくなる

- ・<サードプレイス> 多くの利用者にとって、村半は家・学校以外の心地よい居場所(サードプレイス)として、自由に利用され、評価されている。
- ・<多機能性> パーティ、会議、イベント、文化祭準備といった**多様な用途**がみられた。また、出会い、交流し、思い出を作ることは「村半がなければできなかつたこと」と捉えられている。
- ・<捉え方の変化と愛着> :高校生のうちは便利で勉強しやすい場所と捉える傾向が強いが、**転出者は多くが居場所・サードプレイスであったことを意識**。帰る場所としての愛着があらわれている回答も複数。
行動としても「帰省の際の立ち寄り」や「情報発信のチェック」のように繋がりを維持。

転出した元利用者と、地域を繋ぐ機能を果たしていることが明らかに。

村半の外でできること

第4章「村半」調査 4-4 利用者調査

40

- ・「利用したことがない」65人の高校生
- ・他に利用する場所 学校2人、塾・予備校5人、文化会館6人、図書館8人
- 、
- 残りの44人は、まちの施設を使わない(学校や家で勉強)
- ・「高校生誰もがまちで過ごす、というわけではない」 のも実態
- ・複数の居場所があることで、「まちでの過ごし方を選べる」ことは価値がある



バロー



駿河屋アスモ店



文化会館

村半を形づくる要素

第4章「村半」調査 4-5まとめ

41

<プロセス面>

- ・住民参加と合意形成→地域からの応援
- ・歴史性と活用を両立する改修の工夫
- ・歴史的建造物由来の小さく多様な空間
- ・家具やしつらえへの参画

<仕組み面>

- ・担当部署の工夫
- ・運営体制
- ・利活用検討会での不斷の議論・改善
- ・観光客の訪問とまじわり

<人・ソフト面>

- ・見守り、観察し、任せる
- ・いってらっしゃいとおかえり(温かさ)
- ・サードプレイス・居場所、頑張らなくていい
- ・自由度、ルールの自主性

現在の村半

- ・帰属意識や愛着(ふるさとの感覚)
- ・学生の自由活発な利用・利用しやすさ
- ・展開されるイベントや取組
- ・視察や研究など外部とのつながり
- ・近隣地域とのつながり
- ・出身者とのつながり

- ・全国の歴建の公有化をめぐる様々な課題を、どのように乗り越えているか

課題① 整備目的と意義

→高山では政策課題(観光、回遊、人口減少)への対処を見据えて特色ある4施設を整備。若年人口の減少を踏まえて整備された村半では、利用者の転出後にも意味づけを深化させながら、再訪やSNSなどで地域内外を繋いでいる

課題② ②運営体制

→市の直営で、運営の方針・姿勢を担当課・スタッフ・利活用検討会間で共有

課題③ ③制約を越える

→村半の整備プロセスでは、住民との議論を経て計画策定。数々の工夫により歴史的価値を守りつつ、担当課の枠にとらわれない活用を実現

課題④ ④有効活用

→利用者が居心地よく自由に使える場づくりの工夫、利活用検討会を開いて改善し続ける体制

ご清聴ありがとうございました。

今後の研究継続方針 博士論文のケーススタディとして

- ・メディアによる村半の活動把握
 - ・議事録分析による整備プロセス探求
 - ・利用者による生の声
- など